# 防災力アップへ大学生と協力

## 美鈴が丘学区住民 ハンドブック作成計画

西日本豪雨で被災した場所を防災マップで確認する宮本会長（左端）と鈴木さん（左から3人目）たち

広島市佐伯区美鈴が丘学区の住民たちが、広島工業大（同区）の学生と連携して地域の防災力向上を目指す活動を始めた。2022年度から2年間かけて勉強会や意見交換会を重ね、防災ハンドブックを仕上げる計画だ。

15日にあった初の勉強会には、同学区自主防災会連合会のメンバーや防災について学んでいる学生たち6人が参加。防災マップで危険箇所を確認した後、18年7月の西日本豪雨で民家近くまで土砂が押し寄せた現場などを巡った。

防災意識をテーマに卒論研究をしている同大環境学部4年鈴木陸斗さん(22)は「現地を見て被害の大きさをイメージできた」と話していた。

活動は同連合会と美鈴が丘まちづくり協議会が主体となり、地域活性化を支援する市の補助金を受けて進める。学生たちの声も取り入れ、災害時の安全な避難経路などをまとめた冊子を23年度末までに作成。学区内の全世帯に配布し、防災訓練などを重ねる予定でいる。

同連合会の宮本暁子会長(66)は「災害で一人も命を失うことのない、安全に住み続けられる美鈴が丘にしたい」と意気込む。（菊池諒）